

セホイイテロビエライ
ひたさシネマ制作

迷つても、
間違えても、
私は私を、
信じている



4作連続ベルリン映画祭招待の快挙!

『桜並木の満開の下に』は、突然の事故で最愛の夫を失いながらも、その悲しみを乗り越えようとするヒロインの心の葛藤を美しい桜並木を背景に描いたラブストーリーだ。監督は『ビッグ・リバー』、『フタバから遠く離れて』等で国際的にも評判の高い船橋淳(ふなはしあつし)。本作を含め、監督作品5本のうち4作品がベルリン国際映画祭に招待されるという快挙を果たした。本作は茨城県日立市の映画製作支援制度「ひたちシネマ制作サポートプロジェクト」の助成を受けて製作され、ロケ場所提供、エキストラ、炊き出しなど日立市民による様々な協力を得て撮影が行われた。映画のクライマックスを彩るのは「日本のさくら名所100選」にも選ばれた平和通りの桜。ライトアップされた見事な夜桜が圧倒的な印象を残す。

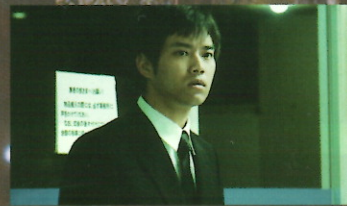


愛に揺れ動くヒロインを見事に演じ、 女優として開花した白田あさ美

一度は憎しみさえ抱いた相手との間に芽生えた恋愛感情に揺れ動く栗(しおり)役を演じたのは白田あさ美(『東京プレイボーイクラブ』)。船橋監督との度重なるディスカッションの末、難役とも言えるヒロイン像を見事に作り上げ、演技派女優としての新境地を開いた。『RAILWAYS』、『あなたへ』等での着実な演技が印象に残る三浦貴大が工(たくみ)役を演じ、蜷川幸雄演出の舞台で知られる高橋洋(『東京公園』)が研次役を演じている。ポーランドの俊英作曲家ヤニック・ドゥズインスキーによる格調高い音楽、「レッド・エピック」を使用した古屋幸一による流麗な撮影も本作の見どころである。

震災後の茨城県日立市を舞台に、理不尽な運命に翻弄される男女の物語

小さな町工場で働く栗は結婚したばかりの同僚・研次との幸福な生活を夢見ていた。ある日、作業中の事故で研次が亡くなり、栗の生活は一変する。事故を起こした若い工員・工は栗に謝罪しようとするが、栗はそれを受け入れられない。だが、研次の死によって経営的な危機に陥った工場を立て直すべく必死に働く工の姿を見て、栗の閉ざされた心は和らぎ始める。やがて1年が過ぎ、工の功績もあって工場は再び軌道に乗る。そんな時、栗は工が工場をやめて出て行くことを知らされる。工を問い詰めた栗はその理由を聞いて動揺する……。



2012年/119分/デジタル/カラー/シネスコ

©2012「桜並木の満開の下に」製作委員会

「ひたちシネマ制作サポートプロジェクト」とは

日立市のPR・イメージアップを目的に、平成20年度からの3か年を計画期間とした映画制作を支援する事業である。日立市をロケ地とした映画の制作をプロ、アマチュアを問わず広く全国公募し、大学教授、地元出身映画監督、映像文化に携わる市民らで構成する「ひたちシネマ委員会」が選定した作品の映画制作を奨励金により支援する。今回の映画「桜並木の満開の下に」は、本事業の最終4作品目として、ロケ地である日立市の多くの地域資源が活用されており、国内外の映画祭や劇場での上映を通じて、日立市の魅力発信に大きく貢献するものと期待している。